



1996-97年度 RI テーマ

ルイス・ビセン・ジアイ
1996-97 RI 会長

■■■ 築け未来を 行動力と先見の眼で ■■■

第2560地区
ガバナー——吉 田 昭 平
会 長——捧 賢 一
会長エレクト——五十嵐 総 一
副 会 長——細 井 増 雄
幹 事——五十嵐 昭 一
副 幹 事——佐 野 勝 栄
S A A——菊 池 涉
副 S A A——山 浦 日出夫

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び——三条市旭町 2-5-10
事 務 局——三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35-3311
事 務 局——TEL 35-3477
FAX 32-7095

本日出席会員数	78名中 56名
先々週出席率	94.59 %

齋藤弘文さん、熊倉昌平さん、
丸山行彦さん、細井増雄さん、
藤田紘一さん、榎本 勝さん

ヴィジター

三条南より 野崎正明さん

8/20 田上あじさいへ

加藤紋次郎さん

先週のメイクアップ

8/12 三条南へ

西山徳厚さん、長谷川有美さん、

五十嵐晋三さん

8/13 三条北へ

齋藤弘文さん、林 光輝さん

8/19 三条南へ

会長挨拶

五十嵐総一会長エレクト



皆様こんにちは。本日は、三条南クラブより野崎さんがメーキャップにおいて下さいまして大変ありがとうございます。ごゆっくりお寛ぎ下さい。

今日は捧会長も細井副会長もお休みですので回り回って2時間半前に連絡頂き、会長エレクトとして(会長見習生)ご挨拶申し上げます。

先週お盆の為、特別休会という事で2週間ぶりの例会ゆえ、皆様ご出席がよろしい様です。お盆休暇でゆっくりお休みになられた方々や家族旅行された方々も多かったと思います。今日のニコニコBOXを楽しみにしております。

又、お盆に台風12号で皆様方々余り被害はなかったと思われませんが果物に大きな被害が出たようですし、連日の真夏日で雨が好しい気持とO-157に神経疲れで皆様充分に健康に注意して下さい。

今日、いよいよ熊本工-松山商との夏の甲子園、高校野球決勝戦で白熱の戦い

が予想されます。私も佐野会員から巨人-横浜戦の券をいただき明日東京ドームに見学に行つて来ますが巨人が首位になったばかり…楽しみにしております。

最後に西山会員の卓話を期待しておりますので卓話時間をたっぷり取る為、これで挨拶を終わります。

幹事報告 五十嵐(昭)幹事

◎吉田ガバナー事務所

地区会員増強セミナー開催のご案内がとどいております。

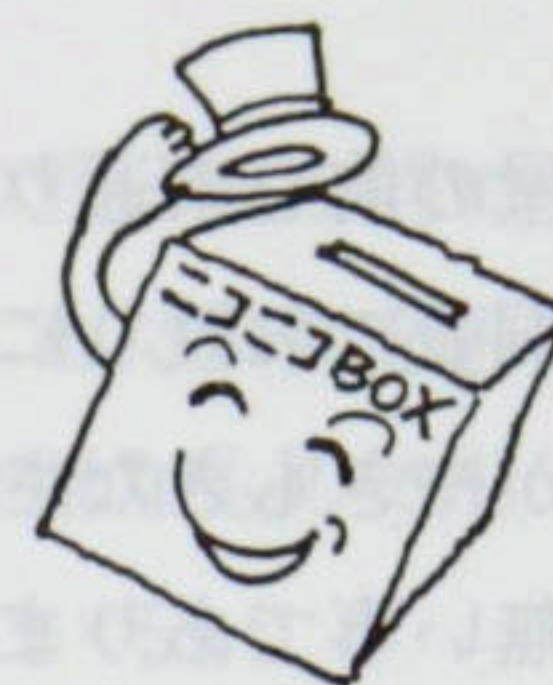
と き 9月21日(土)

AM11:30~

ところ NASPAニューオータニ
義務出席者 会長、会員増強委員

◎9月8日(日)新潟第4分区I・M出席者は12時50分市役所前集合1時出発になりますのでよろしくお願い致します。

ニコニコBOX



五十嵐総一さん

お盆休みで家族で和合温泉でゆったりとくつろいでまいりました。本日は会長代理の挨拶させていただきます。

小林九満太さん

山本福七さんより頂いた「閑牛メモ」を一気に読みました。お得意の川柳と人柄がしのばれる流麗な筆致の文章に感服しました。いつまでも元気で頑張ってください。

荻根沢隆雄さん

ジャイアンツの快進撃首位返り咲き、亡き渡辺惣吉さんの喜んでる様子が偲ばれます。

中村和彦さん

お盆に軽井沢へ家族でテニスに行つて来ました。とても涼しく過ごしました。都合により早退させていただきます。

佐久間勝敏さん

17、18日と佐渡にクロダイ釣りに行きましたが、アジ、メジナなどが釣れ、カンジンのクロダイの成果はゼロで無念の涙でした。

高森章仁さん

立山黒部アルペンルートを楽しんで来ました。

佐藤 武さん

西山さんの卓話楽しみにしております。

小林英雄さん

孫の誕生と家内の父の逝去が重なり多

忙な真夏となりました。葬儀には菩提寺の藤田説量様はじめクラブ会員、多数の方々のお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

8月21日分

¥18,000



卓話

平安朝の仮名とそのころの暮らし

西山徳厚会員



趣味の話をとの事ですが、苦手な仮名文字を書いて居りまして、それを題材に平安朝の仮名とその頃の暮らしを話してみます。

良寛の詩や歌を美しく拝見し、仮名文字の美しさに目を魅かれ、それを自分の手で書きたいと、仮名文字を初めましたが、道のりは遠くなかなか腕が上がりません、そして、話題としてもあまり面白くありませんので、仮名文字と仮名文学

が発生し、それが華麗な発展をとげた、奈良時代から藤原氏が全盛を誇った平安時代の話をしていただきます。

まず仮名の発達は西暦701年の飛鳥時代後期から始まり、平安末期の1131年頃の、半世紀の間には、ほとんど完成された様です。紫式部の源氏物語と言う、光源氏をめぐる恋いの立て引きの、後宮物語りが美しい仮名文字で書かれて居ます。

その頃の婚姻形式は天皇は法に依り1婦多妻を規定され、皇后のほかに妃2人、夫人3人、ひん4人、ここまで都合10人そのほかに後宮の美女多数、幸せと言うべきか、辛いと言うべきか、とても私どもには理解出来ません。

この制度は藤原時代に崩れますが替わって、皇后、中宮、の他に女御、更衣の名で呼ばれる女性がありました。

源氏物語にも窺い知れる後宮のムードは真にすさまじい妬きもちと嫉妬の渦だったようで、今も昔も変わりはないようです。

後宮は文字どおり内裏の後ろの部分で占めて居りました。内裏の中核をなす紫寝殿を中心に4つほどの建物を廊下で結び后町の異名が有りました。

天皇の住まいは紫寝殿の隣の清涼殿です。天皇が後宮に通われるばかりで無く、後宮から出向くようにと召されることもありました。

帝は更衣の御局の桐壺をご寵愛になりしばしば、多くの女御、更衣たちのお部

屋の前を素通りされて、ひっきり無しに桐壺にお渡りに成るので、それらの方々がやきもきなされるのも成るほど無理の無い事でありました。

また桐壺の更衣のかたも、お召し答えられ廊下を、お渡りに成るので色々なたずらを仕掛けられ衣装の裾も、台無しに成るなどの事が度々あり、天皇のご寵愛が深ければ深いほど、気の弱いヒロインには耐えられない日々であったそうです。

また源氏物語、ははきぎ、の巻の1節に源氏17才の夏訪れた紀伊守の家で、たまたま来合わせた紀伊守の義母、空蟬と、1夜の契りを交わす場面のプロローグの1文がありますので読んでみます。

酒の酔いもすすんで、供の者は皆すの子の縁に臥して、寝静まってしまった。

源氏の君はくつろいでおやすみにもなれない。今日は一人寝かと思うとかいて目が覚めてしまう。

すぐ北側の障子の向こうに人の気配がするので、さてはあの話題の女の隠れている所だな、何という事だと、じっとしておられない気持ちになって、そっと起きて立ち聞きをされると、さっきの子どもの声で、もしもし、どこにいらっしゃるの、とかすれた可愛い声。女が答えて、私はここに寝ていますよ、お客様は寝てしまわれたのかしら、どんなお近くと案じていたら、案外遠くにいらっしゃるようね。と、しどけない寝ぼけ声が、あの子によく似ているのは、姉弟、だからだ

などお思いになる。源氏の君は庇の間に休まりましたよ、音に聞こえたお姿を拝見したけれど、それはご立派なものでしたよ。と、ひそひそ言っている。

話題の女性である空蟬は源氏の君と襖一つへだてた母屋に寝、従者は、その外側の簾の子で酒に酔って、寝ている間の出来事らしい事が分かる。

当時の貴族の住まいは寝殿造りで、たとえば5間、3間の母屋の周囲を幅1間の縁を回し、全部板敷きで、御帳台で休むか、母屋の一部を壁で囲み、お茶のにじりぐちのような小さな入り口を付け、塗ごめ造りとしそこで休んで居ました。寝具は、うすべりを敷き素裸に着ていた衣を掛け夜を過ごし、供の者は縁側にゴロ寝。上級貴族の寝所、寝室は大体こんなものだったそうです。

さてそこで本題に戻し、仮名の生まれる必然性ですが、上流の女性になれば、なるほど簾、壁代、きちょう、の奥深くその上乳母や女房達にかしずかれており、容易には姫の姿を見ることさえできません。

近侍の女房達の評判を聞いて、我が想いの丈を婉曲な和歌の恋文で、てなずけた女房を通じて出します。

贈歌には答歌が必要です。答歌のないのは姫君の教養を疑われてしまいます。姿を見ることのできない交際には、まず和歌と筆跡が結婚の条件として必要不可欠なものでありました。

望みが叶って結婚すればしたで、女性

は多妻の中の一人となる訳で愛の競争者が多く、浮気なハンターの夫の愛情をつなぎ止めるために、美しい仮名で書かれた和歌が、文学的教養とか趣味とかと言う程度のものでなく男女とも生活の必需品でありました。

奈良時代は万葉仮名を楷書、行書の2体で書くのが普通でありました。公的な記録は男性の仕事で漢文で書くのが普通であり、カタカナは速記用で日常的、私的なことは女性の世界で万葉仮名で書かれておりました。

おそらく、漢字漢文から門戸を閉ざされ草書の元字を知らない女性や学の無い男性によって、元字にこう泥することなく自由奔放に書き崩していった結果、日本独自の女手、仮名を作り上げたと思われます。

明治43年小学校令が改正され今のひらがな48文字となり、その他は学校教育では取り上げない事となりました。

それ以来約90年程の年月が流れ、今から40年か50年程前位ですと仮名文字とか昔の手紙など、なんとか読める人も居られたらしいですが、今は古文書とか特別な勉強をされた方以外は読めなくなり、日本古来の文化が我々の社会から遠ざかり消えつつあるのは残念な事で有ります。

尤も和歌など書いて見ますと、ざじぞぞ、とかがぎぐげご、とか濁点もなく漢字も混じるものですから、難解も、難解で有り、木版による浮世絵など文字の形も特殊で分かりずらく、達者な手紙文

に到っては昔の言葉知名その人の癖も有ってほとんど読めません。

1例として大和仮名の使用文字例として、か、な、の2文字を書いて見ました。か、と言う文字の部分では8体ほどで、赤く書いた文字は現在も仮名書道で使用して居る部分です。なも沢山あるのですが、6体書いて現在2文字使用されております。なぜ、他種類の文字が必要とされたかと言うと、和歌とか文章を作るとき、同じ文字を並べると味けなく見映がしないので、同じ文字を並べるのを避けたり、絵を書くような感覚で美しい文字を書いたり、観賞したりしました。このような繊細な美的感覚を持つ平安人の仮名芸術の完成に驚異し、日本人として誇りを覚えるので有ります。

その頃の暮らしで有りますが、平安の頃は油も高価で、蠟燭も無く、明るい灯具の元に暮らす我々には想像も付かぬ暗い夜で、夜を騒ぐ者は、物の化か盗賊でありました。たとえば、清小納言の、枕の草子に依ると、春はあけぼの ようやく白くなりゆく 山際はすこし あかりて紫だちたる雲の と有る様に、朝は早く暗い内に起きだすのが世のならいであり、お役所勤めが6時頃から始まり都大路が通勤ラッシュで賑わったようです。

当時は2食で、朝食は午の刻今の12時頃家に帰りとったそうです。今の8時間勤務より短く、6時間勤務で、6日に1日休みで監督署にも、お誉めを頂くような、のんびりと人間的で有ったようです。

申の刻、今の4時頃夕食になり、当時の貴族は主食として主要カロリーを米から採り、1日に主食の米3合半を塩干物を主とした食事で、このため勢い体は酸性過剰になった。貴族に結核とか長い間治療しなければ治らない皮膚病だとか、崩壊性疾患が多いのは一つには体が酸性過剰に成っていたからであるそうで、新鮮な野菜や魚の不足で体力が低下し、調理法も進歩せず体力低下し、精神力も弱くなり短命になり、そして末法思想のような退廃的人生観を生み出すようになり、そして平安貴族社会の崩壊につながったと言われております。

その一方で庶民の食事は雑食で、たとえば中国の広東料理はとかげ、こうもり、蛇、猫あらゆる物を食べその豊富さは800点の食材を使用するそうですが、日本人は1,500種類にも及ぶ、動、植、物を食べたと言われ、武士階級は牧狩をしたり肉なども食べ、栄養バランスが良く源氏が平家に勝ったのはそうした事も影響があったのではないかと言う説もあります。

日本の平安時代の文学はとくに食べ物を書かないので有名であり、枕の草子の中で記述の中に出て来るのは、わずかに氷と苺だけだそうです。このように食べ物の表現が少ないのは食欲を煩惱の1種と考えロマンの対象には考えなかった貴族の誤った意識の為だそうです。

さきほど、調理法も進歩せずと申しましたが、この頃料理の味付けの基本に言われる、サ、シ、ス、セ、ソ、砂糖が無

いだけで、塩は有りました。酢も有ったらしいです。4番目のセ、醤油の事ですがその元である、ひしお、5番目のソ、味噌が奈良時代から発達し、ししひしお、これは肉を材料に、魚のときは、いよひしお、どちらも塩干です。野菜や植物を材料にしたものは、くさひしお、これは漬物。それに米、麦、豆などから作る味噌、醤油など穀物から作る穀醬などが作られ、今我々が重宝に使って居ります。

住まいでは、その頃の寝殿造りの模様など見ますと風呂とか便所などが見あたらぬそうですが、風呂は蒸し風呂、湯やは湯を沸かし浴びたそうです。

しかし毎日では無く、その為、香をたきしめる習慣が有った事はパルジエヌの香水も同じでした。

便所のお話をします。

その頃の便所は、樋殿と言って便器である漆塗の樋箱を使う所で、畳を敷き姫たちの衣装を汚さないように従者が裳裾のなかに、そっと入れ箱が見えない様にして用をたし、殿方は革で造られた差し渡し5センチ、長さ50センチ程の筒を、行列の際用い、供の者が腰に差している姿が絵巻物に絵かれているそうです。

町の庶民は都大路のそこ、ここで用を足し、下々の者が通りの名を、くその小路と呼び、帝が聞かせ給いければ余りに汚き名かなと、錦の小路と名付けられたそうです。

これはフランスのパリでもペストの流行まではパリの大路、小路も汚く、ベル

サイユ宮殿も便所が数個しかなく、華やかなパーティの夜は絵などで見ますパラシュートの様なスカートのご婦人の姿が広い庭のあちこちで人の目を盗んで月見をなさったそうですが。

取り留めもなく話が広がりましたが、優雅な貴族の文化の素晴らしさや、その影に庶民の強さを感じ、それと引き比べて物質文明に恵まれた我々の生活、その代償としてあくせくと、時間に追われる日々を過ごして居る私たちであります、果たしてどちらが人間的なのか。

生き馬の目を抜くと言われた、活力を誇る三条人にも、もう少しの文化の味付けを加味すれば、更にひと味違った素晴らしい21世紀都市を作ることが可能であると感じました。

専断で決まることが多く、関係者間の話し合いが重要である。また、地域の状況や関係者の意向を十分に把握し、柔軟に対応することが求められる。また、関係者間の話し合いが重要である。また、地域の状況や関係者の意向を十分に把握し、柔軟に対応することが求められる。

また、関係者間の話し合いが重要である。また、地域の状況や関係者の意向を十分に把握し、柔軟に対応することが求められる。また、関係者間の話し合いが重要である。また、地域の状況や関係者の意向を十分に把握し、柔軟に対応することが求められる。

例会案内

三条RC	8月28日例会→31日(土) 例会 鮎祭り
	9月4日例会 卓話 第2560地区青少年奉仕委員会 委員長 山田五雄殿

メイクアップをどうぞ

三条南RC	9月2日例会 卓話 野崎正明会員
	9月9日例会 クラブフォーラム

三条北RC	9月3日例会 会員卓話
	9月10日例会 クラブフォーラム

燕RC	9月5日例会 会員卓話
	9月12日例会 会員卓話

加茂RC	9月5日例会 卓話
	9月12日例会→9月8日のI・M振替

見附RC	9月5日例会 会員卓話
	9月12日例会 会員卓話